

サポーターズクラブの取り組みについて

みやぎ心のケアセンター
基幹センター 調整課
課長 精神保健福祉士 丹野 孝雄

1. はじめに

『サポーターズクラブ』は、みやぎ心のケアセンター（以下、当センター）から支援要望のある自治体や地域、機関などへ必要に応じサポーターズクラブ登録者（以下、サポーター）を無償で派遣する事業である。サポーターは、精神保健福祉に関してさまざまなスキルを習得している専門職員（医師、保健師、看護師、精神保健福祉士、社会福祉士、作業療法士、臨床心理士、保育士など）である。この事業は、関係機関に所属する精神保健福祉などの専門職員との連携のなかで取り組んだ。当センター開所直後は、職員の十分な配置が望めなかったため、日替わりで全国各地から医師、精神保健福祉士、保健師などの専門職が支援に加わった。当時からの登録者数はすでに70名を数える。現在は、県内在住者を中心に10名前後のサポーターの協力を得ながら取り組みを継続している。

2. 平成27年度活動報告

(1) 活動者数

平成27年度は、8名のサポーターが自治体や当センター主催事業で活動した。

(2) 活動内容

デイキャンプの運営と市町（山元町、多賀城市）の住民支援活動を行った。

①デイキャンプ運営への協力

仙台市近郊沿岸部地域の小学生とその保護者を対象にデイキャンプを実施したが、野外活動やレクリエーションおよび心理教育やストレスケアのプログラムに、当日スタッフとして加わってもらった。

②市町の住民支援活動への協力

仮設住宅入居者の健康相談会、被災住民への訪問を中心とした健康支援に協力した。

A.山元町

山元町が実施する被災者の健康・生活支援の中で、山元町サポートセンターが実施したプレハブ仮設住宅住民対象の健康相談会にサポーターを派遣した。サポーターによる健康相談会は、プレハブ仮設住宅集会所を会場に5月から9月まで開かれ、個別相談につながった。

B.多賀城市

多賀城市が実施する被災者の健康・生活支援の中で、健康リスクが高いと考えられる住民への個別対応にサポーターを派遣した。当センター職員とサポーターが協働して住民支援に

あたった。

活動の中心は、健康リスクが高いと考えられる住民を訪問し、健康状態や生活状況を確認することであった。ここでは、必要に応じ専門相談機関につなぐことや、災害後のストレスやさまざまな困難にうまく対処するための助言や生活面にわたる支援を行った。また、この他に、住民健康に関する情報のデータ集計などの事務的な支援も行った。(表1)

表1 サポーターの活動内容 (平成27年度)

活動先	項目	内容	職種	形態	人数	日数
みやぎ心のケアセンター	運営協力 (主催事業)	・デイキャンプの当日スタッフ (野外活動・レクリエーション・ 心理教育・リラクゼーション)	医師 保育士 精神保健福祉士	単発	6	1
自治体(山元町)	住民健康支援	・健康相談会での来所相談 (仮設住宅住民対象)	作業療法士	連続	1	13
自治体(多賀城市)	住民健康支援	・訪問 (住民現況調査後のハイリスク者対象) ・事務作業	看護師	連続	1	24

3. 今後の活動に向けて

サポーターの果たした役割の大きな点は、地域のニーズに可能な限り即時に対応し、不足する支援を補ってきたということであろう。デイキャンプにおいては、参加者への細やかな対応を行うために多くのスタッフを必要とした。ここに、サポーターとして児童精神科医、保育士、精神保健福祉士など多くの専門職が加わることで、子どもの心身の変化に対応する体制や安心して親子が参加できる状況を整えることができた。また、市町の住民支援においては、住民が気軽に相談ができる場の提供や訪問活動での対応が求められた。プレハブ仮設住宅などで長期生活する住民はストレスの多い状況にあり、取り残され感やあきらめ感を抱く人も少なくない。自らサポートを求めることができない(しない)人々の状況が危惧され、市町の住民支援においては、いわばこれら援助希求力の低下した人々に対する対応を求められたといえる。そして、このような中で、サポーターとして地域の状況を熟知している専門職が加わることによって、より早期に健康リスクが懸念される住民の状況確認や相談対応を行うことができたものと思われる。

現状では、住民支援を中心としたニーズに対して、依然として支援に取り組める専門職が少ない。今後の展開としては、地域の支援者が充足するまで、当センター職員とサポーターが、これに応え、不足する支援を補っていくということが必要となるであろう。